京都新聞

発行所　〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

11/7(日)

大学生の「心の健康」について議論したシンポジウム（京都市北区・佛教大）

# 大学生の心のケア探る

## 精神保健社会学会　シンポや基調講演

北区

メンタルヘルス（心の健康）について研究する「日本精神保健社会学会」が六日、京都市北区の佛教大で開かれた。大学生の心のケアをテーマに、現代の若者の問題となっている自傷行為や過食障害について議論された。

学会は精神医学や心理学など「心の専門家」らで結成し、今年で十回目。学内のカウンセラーへの相談件数が全国的に急増していることから、大学生の「心」についてシンポジウムと基調講演を開いた。

シンポジウムには佛教大と甲南大（神戸市）の学生相談室のカウンセラーと、精神科医の栗本藤基さんが参加。カウンセラーが「『生きるのがつらい』といった漠然とした不安を訴える」「リストカットや、複数の人と性的関係を持つ学生はもう特殊ではない。ためらいなく直接的な行動をして傷つく」と現状を指摘。栗本医師は「従来の態勢では対応できない。教育と医療が『学生の自立』のため連携することが必要だ」と述べた。

また学会長の筑波大の宗像恒次教授が大学生のメンタルトレーニングについて講演した。